

2011年IEEE広島支部第3回理事会議事録

日時: 2011年9月2日(金) 14:00～15:30

場所: 山口大学 工学部 D 講義棟 3F 34 番教室

参加者 (議決権保有者数): 13名

堀田、舟阪、田岡、大久保、上土井、田村、福嶋、山本、平川

(委任状: 市村、紀和、近藤、山本透)

議題

1. 第13回 HISS について

i. 実行委員会からの現状報告 [資料 1-1]

田岡庶務幹事が実行委員会から提出された資料 1-1 について説明した。

ii. IEEE 広島支部学生シンポジウム研究賞規定 [資料 1-2]

iii. IEEE 広島支部学生シンポジウム研究賞選定内規 [資料 1-3]

iv. 研究賞審査方法について [資料 1-4]

田岡庶務幹事が研究賞に関する規定と選定内規を示し(資料 1-2, 1-3)、審査方法の素案(資料 1-4)について説明した。問題点を把握することが出来たが、具体的な方法を決めることができなかった。後日、メール等により、協議および審議することになった。

v. 論文の採否判定について

論文の採否判定における条件付採録の扱いについて田岡庶務幹事が説明した。また、査読者の一人が不採録でもう一人が採録のように判定が分かれ総合判定として採録とした論文があり、それに対して、不採録のコメントに対する回答文を著者に提出してもらい、当該査読者に確認していただくように、支部長が指示した。

その後、役員でメールにより協議し、判断が難しい判定については実行委員のみで決定するのではなく、本支部役員や理事に確認の上、決定するべきと支部長から意見が出た。たとえば、査読者の一人が不採録でもう一人が採録と判定された場合など。

vi. 開催期間中の作業分担について [資料 1-5]

田岡庶務幹事が HISS 開催期間中の作業について説明し、他の理事会メンバーで作業を分担することを確認した。

vii. システムについて [資料 1-6]

田岡庶務幹事が前回の HISS で業者に依頼して構築したシステムについて報告した。

viii. HISS Support Club の現状と HISS 予稿集の大学リポジトリ掲載について [資料 1-7]

- HISS Support Club 参加承認者状況
支部長より、HISS Support Club 賛同者に関する現状報告があった。
- HISS 予稿集の大学リポジトリ掲載について
支部長より、山口大学図書館リポジトリにおける HISS 論文予稿集原稿掲載について審議依頼があった。
 - 今回の掲載依頼に関しては理事会として許可する。
 - 公開するデータについて：現状では、投稿論文原稿からの変更はあまりなく、各論文に学会ロゴ等も挿入はしていない。論文についての、著作権譲渡については現在検討中であるが、本シンポジウムの知名度を上げるには、リポジトリ等を利用して各自の発表論文を公開する事は意義がある。以上の理由から、上記、どちらの形式でも OK とする。ただ、今後、各論文に親学会である IEEE のロゴ等を使用する場合もあるので、その際にリポジトリへの登録承認依頼が来た場合には、再度、理事会で検討する。
 - 今後の対応：今後規則等の変更の可能性があるため、支部長または庶務幹事まで連絡・確認頂きたい。

2. IEEE 広島支部功績賞について

田岡庶務幹事が、推薦がなかったことを報告した。

3. Sections Congress 参加報告と R10 Meeting 参加報告 [資料 4]

8 月に SF で開催された Sections Congress に参加した舟阪副支部長より出席報告があった。また、会議参加旅費の内、Region10 から支給される US\$1,250 を超える金額について、支部会計より支出する事が支部長より理事会に付議され了承された。

4. その他

本支部が協賛し、3 月に開催予定であった国際会議 ADSN2011 が 6 月 29, 30 日に延期され、盛況のうち開催が終了したことを舟阪副支部長が報告した。

【資料 1-1】

HISS 実行委員会からの現状報告

・体験講座

題目：「HP の制作」

対象者：中学・高校・大学生

内容：HP 作成に興味はあるが、やり方が全く分からない人がリンクを貼ったり、画像を貼ったりできるようになる。

・基調講演

題目：「中国地方の発電の現状と今後の動向」

講演依頼先(予定)：中国電力 エネルギア総合研究所

講演内容(予定)：東日本大震災により日本の電力不足が深刻化している現状において、各電力会社が電力の安定供給に対して現在どの様に取り組んでいるのかについて講演して頂きたいと考えています。また、今後どのように乗り越えていこうとしているのかを現在、電気・情報系の大学や高専に所属し将来その分野の技術者として活躍したいと考えている学生を対象として講演して頂きたい。

・投稿論文数

査読論文の件数が 151 件で、すべて採録。8 月 31 日に採否通知送付済み。

・協賛・後援状況

協賛大学 広島大学

協賛財団 電気通信普及財団

後援学会 映像情報メディア学会中国支部、応用物理学会中国四国支部、情報処理学会中国支部、電気学会中国支部、電気設備学会中国支部、電子情報通信学会中国支部

後援大学 岡山県立大学情報工学部、島根大学、鳥取大学大学院工学研究科・工学部、広島市立大学大学院情報科学研究科、山口大学工学部、岡山大学

・各団体への後援申請

映像情報メディア学会中国支部 1 万円(決定済)

応用物理学会中国四国支部 0 円

情報処理学会中国支部 2 万円(決定済)

電気学会 5 万円 (10 月から受付、おそらく OK)

電気設備学会中国支部 2 万円(決定済)

電子情報通信学会中国支部 2 万円(おそらく OK)

電気通信普及財団 30 万円(決定済)

東広島市 10 万円(申請済)

(参考) JC から 40 万円、IEEE 広島支部から 40 万円。

【資料 1-2】

IEEE 広島支部学生シンポジウム研究賞規定

2009(H21)年 11 月 21 日制定

第 1 条 本規定は IEEE 広島支部学生シンポジウム（以下、HISS と略す）研究賞（以下、研究賞という）について規定する。

第 2 条 研究賞は当該年度の HISS で発表された優秀な研究を表彰するための賞であり、その第一学生著者に贈るものとする。

第 3 条 次の 2 つの賞を設ける。

- ・ HISS 最優秀研究賞 1 名
- ・ HISS 優秀研究賞 若干名

（審査委員会）

第 4 条 研究賞の審査及び決定は HISS 研究賞審査委員会（以下、審査委員会という）が行う。

2 委員は IEEE 広島支部理事会が選定し、支部長が委嘱する。

3 審査委員会は委員長 1 名、幹事 1 名を含み、それらは審査委員の互選により選出する。

（審査の手順）

第 5 条 委員長は当該年度の HISS 開催期間中に審査委員会を開催し、受賞論文の審査及び決定を行う。審査委員会は委員総数の半数以上の出席をもって成立とする。

2 審査委員会は別に定める内規に基づき、受賞論文及び受賞者を決定する。

（表彰）

第 6 条 研究賞の表彰は当該年度の HISS の閉会式において IEEE 広島支部長が行う。

2 賞として表彰状と副賞を贈呈する。

（規定の改廃）

第 7 条 本規定の改廃は、IEEE 広島支部理事会が行う。

附則 この規程は 2009 年 11 月 21 日から施行する。

【資料 1-3】

IEEE 広島支部学生シンポジウム研究賞選定内規

2009(H21)年 11月 21日 制定

2010(H22)年 7月 1日 改訂

1. 審査委員会の編成

- (1) IEEE 広島支部長を審査委員長，理事を審査委員とする。
- (2) 6つの専門分野（(a)電気，(b)電子，(c)通信，(d)情報，(e)基礎，(f)その他）のそれぞれに対し，複数名が審査を担当するように，また審査対象の論文数に配慮して，IEEE 広島支部理事以外から審査委員を追加してもよい。

2. 審査方法

- (1) 各査読委員は担当する論文に対し，以下を選ぶ：
 - ・推薦の可否：「推薦する：1点」，「推薦しない：0点」
- (2) 各審査委員は担当する論文と、担当ではないが関心をもった論文に対し，以下を選ぶ：
 - ・推薦の可否：「推薦する：1点」，「推薦しない：0点」
- (3) 各論文に対して以下のスコア A を求める：
スコア A = (1) と (2) の点数の合計
- (4) スコア A を参考に審査委員会で協議の上，最優秀研究賞を 1 名ないし 2 名選定し，次点の若干名を優秀研究賞とする。

3. 審査スケジュール

HISS 開催 1 か月前まで	審査委員会発足
HISS 開催 1 日目	審査
HISS 開催 2 日目	審査，審査委員会，表彰式

4. 表彰

HISS 優秀研究賞は発表論文の 1 割程度とする。副賞は HISS 最優秀研究賞 1 件あたり 5,000 円，HISS 優秀研究賞 1 件あたり 3,000 円の賞品とする。

5. 本内規の改廃は，IEEE 広島支部理事会が行う。

HISS 研究賞審査方法について

以下の査読報告書を使って査読を行なった。

A. 査読結果

3. 採録
2. 条件付き採録
1. 不採録

B. 査読者の当該分野における専門性（本論文の分野に関して）

4. 査読者の専門分野である.
3. 査読者の専門分野に近い.
2. 査読者の専門分野とは異なるが、当該分野の知識もある.
1. 査読者の専門分野とは異なり、当該分野の知識はあまりない.

C. この論文概要を新規性・有効性・信頼性について、評価を4段階で行い、該当する項目を選択してください。

a. 新規性について

4. 新規性が優れている.
3. 新規性が全体を通して認められる.
2. 新規性が部分的に認められる.
1. 新規性が認められない

b. 有効性について

4. 有効性が優れている.
3. 有効性が全体を通して認められる.
2. 有効性が部分的に認められる.
1. 有効性が認められない.

c. 信頼性について（誤りがある場合にはそれをコメントして下さい。）

4. 理解しやすく、上手に説明されている.
3. 説明されており、理解できる.
2. 本質的な情報が欠けている.
1. 理論的に間違っている.

d. この論文を研究賞に推薦しますか

本項目は、投稿された論文の内、研究賞の第1次選考を行う為に利用します。概要のみの原稿で判断が難しいと思われませんが、総合的に判断して各査読委員が担当査読論文の2割程度あるいは査読論文が5本に満たない場合には、1本程度の論文をご推薦頂ければ幸いです。

3. 非常に推薦する論文である
2. 推薦する論文である
1. 推薦しない

D. 著者へのコメント

そこで、各論文において、二人の査読者の点を

$\text{Sum}(\text{この論文を研究賞に推薦しますかの得点} * \text{専門性}) / \text{Sum}(\text{専門性})$

(推薦の程度が3段階なので差がほとんど出来ない) または、

$\text{Sum}((a+b+c+2*d) * \text{専門性}) / \text{Sum}(\text{専門性})$

のような計算をして、たとえば上位20位の論文を第1次選考とする。ただし、査読者が読んだ原稿は査読用の1ページのものなので詳細を把握しにくいし、最終原稿が大きく変わることがある。

(1枚ではなくほぼ最終原稿に近いものを提出を求め、それで査読することは可能?)

次に、理事会で HISS 研究賞選定委員会等を作り、最終原稿で審査をする、などが考えられる。

過去の状況を以下に示します。(舟阪先生の情報の一部)

査読時の推薦を評価に含めていて、最終原稿の事前審査は実施しています。

当日審査を実施しています。発表の学生に質問して理解度を確かめてみないと、先生が論文を書いて研究賞に選ばれてしまうケースが防げないという理由だったと思います。原稿と発表は別評価にしたり、原稿で推薦候補をいくつか決めておき当日発表をきいて取り下げることができるという運用だったり、いろいろバリエーションはあったと思います。

ただし、いずれの審査においても、辛い先生と甘い先生がいらっしやるので基準をある程度固めておく必要があります。

事前審査および当日審査に理事会メンバー以外の外部審査委員を2007年から昨年まではお願いしているはずですが。特にここ何年かは発表数が150を越えるので、2段階選抜でも実施しない限りは理事会メンバーだけでは厳しいと思います。

たとえば1日目に一旦集計し、候補をしぼった上で、2日目は決戦投票のために評価するという2段階が考えられます。実施する場合、2日とも発表した人でないと研究賞の対象にならないという周知は必要でしょう。

2007-2010年は2日通して評価していたはずですが。2006年は事前審査でしぼっておき、候補の発表のみを2日かけて理事会メンバー全員でチェックしていたようです。

最近では2日目の昼食時は支部長の先生が講演者との昼食会に出られ、副支部長が審査委員会の議長を代理で務めるという形が多かった(2010年を除く)と思います。

審査方法は、セッションスケジュールにも関係しています。

約150件なので、会場の都合で、1日目と2日目に分ける可能性があります(過去は2回とも同じ発表をしているので、できるかぎりこのようなことをしないようにする)。

または、それぞれを前半後半に分けて、ポスターを張り替えてもらうようにする可能性もあります。

場合によっては、体育館(空きは不明)で実施する方法に変更する可能性もあります。

現在、どのように実施できるか確認を依頼しています。

13th HISS 研究賞選定方法（舟阪副支部長案）

スケジュール

- ・ アブストラクト推薦実施済み
- ・ 外部審査委員依頼（依頼する場合）
- ・ 9/30 最終原稿投稿締切
- ・ 審査委員最終原稿審査
- ・ 11/12 HISS1 日目 TP（当日審査）後、中間結果の集計？
- ・ 11/13 HISS2 日目 TP（当日審査）後、最終結果の集計？
昼食時審査委員会：最優秀研究賞（1名程度）優秀研究賞（各分野1名以上？）
の選定

実施方法（下線部が案）

- ・ アブストラクト推薦を実施するかどうか。するならその比率は？

例えば $\text{Sum}((a+b+c+2*d) * \text{専門性}) / \text{Sum}(\text{専門性})$ をそのまま素点とする あるいは 上位？名のみ審査する/点を与え（ボーナス点のような扱い）すべての論文を審査対象とする

- ・ 事前審査・当日審査を実施するかどうか。するならその比率は？

最終原稿は審査するべきとして、当日審査と合わせて学生の貢献と判断できるものを評価する/しない
アブストラクト推薦よりは詳しい情報がわかるので、比率を高くする/しない

- ・ 事前審査および当日審査に理事会メンバー以外の外部審査委員をお願いするか。

理事会メンバーの専門分野を調査し、手薄なところを中心に依頼する/しない
最終原稿と当日審査をまとめて一つの評価とし、HISSに参加できる方に依頼する
実行委員会で実施したアンケートをもとに、実行委員会を通して理事会が依頼する

- ・ 当日審査を2段階に分けるかどうか。

1日目に一旦集計し、候補をしぼった上で、2日目は決戦投票のために評価する

【資料 1-5】

HISS 開催期間中の作業分担について

HISS に関連する仕事の一部は庶務幹事から切り離し、複数の理事等で分担する。

開催期間中の作業は以下がある。(以下は舟阪先生の情報の一部)

・研究賞審査関連

HISS テクニカルプレゼンテーションが 1 日目、2 日目とありますので、当日審査にあられた先生から、最終採点結果を受け取って集計しておりました。審査会が 2 日目の昼食時に行われましたので、それまでに審査委員の先生すべてから結果をいただいてすぐに集計するのが時間的にタイトでした。また昼食時間で決まらなかった場合、昼食後の講演などをきくことができないというケースがありました。(もともと 2009、2010 は会計幹事の山口先生が担当されていたと記憶しています。)

その他、審査委員の先生からの急に予定を変更したいとか、審査用の論文を見たいといった要望に応えたり、いろいろとアクセスされることが多かったと思います。そのかわり自身の審査のノルマは軽めにさせていただいたと思います。

・理事会準備 (庶務幹事)

HISS 期間 1 日目の昼間、終了後などに開催されていたので、その準備が必要でした。

・賞状作成

2 日目昼食時の審査会で決まった賞に対し、閉会式で表彰状を渡さないといけないので、印刷+支部長のサインを迅速にお願いする必要がありました。実際のところ閉会式まで残っている学生は少ないので、形だけの表彰とし、ちゃんとした表彰状はあとで郵送するという運用でもいいとは思っています。

【資料 1-6】

HISS で作成したシステムについて

● システムに関して

1. Windows, Unix どちらでも使用可能。
2. Java (ver.1.6 以上)、Tomcat(ver.6.0 以上)が使用できる環境が必要。
➤ どちらも無料でインストールでき使用可能。
3. システムの導入は、付属のマニュアルに記載されている通りの操作でできる。
4. システムに登録できる投稿者・査読者の情報は、「氏名、ログイン時の名前、パスワード、メールアドレス」
5. 論文の投稿に必要な情報は、「タイトル、キーワード、分野、論文ファイル」

補足：Tomcat の導入方法はインターネットで調べれば出てくる。個人的な感想だが、導入はさほど難しくないとと思われる。また、Unix のほうが Windows よりも導入に多少の手間がかかると思われる。

● 使用できる機能

◇ 管理者

1. 投稿者・査読者の登録
2. 投稿者・査読者の登録情報の変更
3. 査読者の割り当て（複数人割り当ても可能）
4. 投稿論文一覧の確認
5. メールの一斉送信（投稿者・査読者などの選択が可能）
6. 論文分野の登録
7. 査読雛形の作成
8. 査読結果を論文投稿者へ公開するかどうかの選択
9. 論文ファイルの一括ダウンロード

◇ 論文投稿関連

1. Web ページ上から投稿システムへの登録
2. 要項論文・最終論文のアップデート
3. 査読結果の確認

補足：投稿者への結果通知は、投稿者にシステム上で確認してもらうことで可能。

◇ 査読関連

査読に関する機能は査読のページにアクセスできなかったため確認を行っていません。
以下の説明は、ページのダンプを見たうえでの推測となります。

1. 管理者が作成したフォーマットに書き込む形で査読を行うことが可能？
2. 査読対象論文のダウンロードが可能。
3. 採録・不採録はチェックボックスで選択することで可能。

◇ 研究賞関連

機能は査読に関するものとはほぼ同じなので説明を省略します。

● システムの問題点

1. 現状では査読者のページにアクセスすることができません。ソースコードに問題があると思われる当該箇所を修正することで解決可能だと思われます。
2. 投稿された論文ファイルが通し番号のフォルダに入れられる。ただし、投稿者との紐付けができていないためファイルを混同する可能性あり。
3. 査読結果を投稿者にメールで一斉に伝える機能がない。
4. システムに登録される情報が少ない。
 - 必要と思われるが、登録できない情報
投稿者：所属、共著者の名前・所属、電話番号
査読者：所属、査読分野、専門分野、電話番号
5. 管理者が査読結果の公開を一括で行えず、各論文に対する操作が必要。
6. 査読の割り当てを行う際に投稿者の登録情報変更ページで行うため間違えてほかの情報を変更してしまう危険性あり。
7. 査読割り当ての際に論文情報を確認することができないため投稿者が複数論文を投稿した場合に困る。
8. 査読割り当てをドロップダウンリストで行うため査読者が増えてくると査読者を探す手間が出てくる。また、ドロップダウンリストに表示されるのは査読者名ではなく査読者のアカウント名であるためかなりわかりづらい。
9. 最終論文投稿の際にタイトル等の変更ができない。
10. 投稿者の情報などをまとめるような機能がない。
11. プログラムの編成に有用な機能が全くない。

まとめ

論文情報などの必要な情報は投稿論文のファイルを見ないと確認できないためかなり不便であると思われる。また、論文ファイルと投稿者の紐付けが行われていないので投稿者と投稿論文の対応作業を行わないといけない。

登録可能な情報が少なすぎるため査読の割り当てなどは手作業で行うのとあまり変わらないと思われる。

【資料 1-7】

HISS Support Club 参加承認者状況

森成史（山口大学） 現在交渉中
森本高志（広島大学） パナソニック（会社の許可申請中）
曾田康彦（島根大学） 京セラ

----HISS 予稿集の大学リポジトリ掲載について---

■リポジトリでの公開の可否

（*公開する場合は、文献の書誌データおよび本文の PDF ファイルを大学サーバーで保存し、公開します）

■公開可能な場合下記のいずれのものを公開してよろしいか

1. 出版社版（レイアウト・校正が入った後の状態の原稿：著者別刷または図書をスキャンし電子化したもの）
2. 著者原稿版

■今後このようなことがあった時に、その都度承諾が必要かどうか

【資料 4】

IEEE Sections Congress (SC2011) + Region 10 Meeting 参加報告

副支部長： 舟阪

日程

	8/19 Fri	8/20 Sat	8/21 Sun	8/22 Mon
午前	<i>R10 Meeting</i>	General Session	<i>Breakout Sessions 3</i>	<i>Closing Ceremony</i>
			Plenary Session	
			<i>Breakout Sessions 4</i>	
午後		<i>Breakout Sessions 1</i>	<i>Breakout Sessions 5</i>	
	Pre-Conference Reception	<i>Breakout Sessions 2</i>	Computer History Museum Visit	
	Opening Ceremony	IEEE Honors Ceremony		

Breakout Sessions:

30 余りのトピックについて、セミナー方式で各部屋に分かれて開催。資料は

<http://www.ieee.org/go/cle>

からアクセスできる。8/29 現在、SC2008 のものしか公開されていない模様。SC2011 のものが用意できるまでは、

http://www.ieee.org/societies_communities/geo_activities/sections_congress/2011/sc2011_breakout_sessions.html

からたどれる各テーマのページに資料を置いておくとのこと。今回聴講したテーマは以下。

- Preserving IEEE Section History
- Financial Management for IEEE Sections and Chapters
- Resources and Tools for IEEE Member Development
- vTools: Free Electronic Tools Supporting IEEE Section, Chapter, and Affinity Group Volunteers and Members

Recommendations Top 5:

29. IEEE to develop a comprehensive long-term strategy to increase the number of next generation youth pursuing science and engineering careers. (Pre-University)

20. As members maintain their IEEE membership over their years, IEEE must reward them for their loyalty. Rewards ought to be tangible and useful and can be done simply and inexpensively. Create Global Fidelity Programs including: (a) Continue membership Recognition 5-10-15-20 years of membership (b) Bonus for specific Benefits (e.g., reduced fee, IEEE merchandise, etc). (Member Growth and Development)

14. IEEE membership (including e-Membership) should include a Society membership as part of the basic membership fee. (Member Benefits)

34. Increased support to students in technical activities with grants to attend conferences and organization of technical competitions (Student Growth and Development)

30. To encourage interest in pre-university students in engineering careers, IEEE to publish a subscription periodical (paper or electronic) targeted to high school students that highlights engineering activities of interest to those students. The periodical should also have articles promoting the benefits of an engineering career and what the students can do in college to get involved with IEEE. (Pre-University)

経費：交通費（213,440 円）＋宿泊 2 泊
(\$520.26)

※R10 が宿泊 3 泊分をすでに補助済み
(8/18 Check-in, 8/23 Check-out)

※R10 が\$1,250 の旅費補助予定



R10 Meeting Final Agenda

19th August 2011	Agenda Items	Leads
0800-0830	Registration and Arrivals of Delegates	Fanny Su, Ewell Tan
0830-0832	Call to Order by R10 Director	Lawrence Wong
0832-0850	Roll Call	Darrel Chong
0850-0855	Approval of Agenda	Lawrence Wong
0855-0900	Confirmation of R10 AGM 2011 Minutes, Yogyakarta	Darrel Chong
0900-0910	Address by Region 10 Director	Lawrence Wong
0910-0925	Address by IEEE Executive Director	James Prendergast
0925-0935	Address by IEEE President-Elect Candidate	Peter Staecker
0935-0945	Address by IEEE President-Elect Candidate	Roger Pollard
0945-1000	Q&A for President-Elect Candidates	Zia Ahmed
1000-1015	Presentation on Regulatory Compliance	Cheryl Sinauskas
1015-1025	IEEE-HKN	Fern Katronesky
1025-1035	Call for Sponsorship: Social Implications of Technology Conference	Greg Adamson
1035-1040	Call for participation: IEEEExtreme Programming Contest 2011	Gowtham Prasad
1040-1100	Coffee/Tea Break	
1100-1110	Update on Pakistan Humanitarian Fund	Amarnath Raja
1110-1125	Update on OU formation.	Kukjin Chun
1125-1130	Announcement of R10 Awards Recipients	Kukjin Chun
1130-1200	R10 Group Photo-taking	Fanny Su, Ewell Tan
1200-1215	R10 Student Member Retention	Mini Thomas, Darrel Chong
1215-1225	Proposal and Motion to formalize TENCON Spring Conference	James Wong, Lawrence Wong
1225-1230	R10 Meeting 2012 Venue	Lawrence Wong, Darrel Chong
1230-1240	Any other business	Darrel Chong
1240-1245	Adjournment of R10 Meeting	Lawrence Wong
1245-1330	Lunch	

- ・ R10 Director's Address: Conference 開催数は R10（特に中国）で大きく伸びているが、"Suspect" Conference (IEEE の規則に沿わない)も多い。
- ・ Student Member Retention Research Project: India では 6 割近くが学生会員だが、1 年で更新しない人が多い。
- ・ 2nd Annual R10 conference: 従来の TENCON fall に加え TENCON spring が提案され、承認された。
- ・ 2012 IEEE Region 10 meeting: 3-4 March 2012, Kolkata